

OLT Innovator, Hirano Logistics
新しい輸送の形を提案します。

ベリ-貨物専用車両「プラスセブン」

+7 空調管理機能搭載!



新しく空調管理機能を搭載したベリ-ULD専用のトレーラー「+7」。
超低床2層構造。LD3コンテナを従来の大型トラックより7台多い13台搭載可能。
上段には96インチバレットなら4台搭載できます。
装備されたパワーゲートでULDを積み降ろせるので、上屋の設備は現状のままでOK。
環境負荷を低減し、より低コストな輸送をご提案します。

KT 株式会社 平野ロジスティクス
Hirano Logistics Corporation



本社 078-994-0069 関東支店 0476-35-3600 東京営業所 03-6382-7768
成田空港出張所 0476-32-2981 東海支店 0538-42-9480 中部支店 0569-38-7208
関西支店 072-463-7455 関西空港営業所 072-456-8470 神戸営業所 078-965-0918
福岡営業所 092-586-8915 www.hirano-logistics.com

SPACE 12月号
昭和四十六年三月六日 第三種郵便物認可 第五十卷 第十二号
二〇二〇年十二月七日発行(第一号発行)
通巻 六百号
発行所 株式会社 ジャパンプレス社
田 義 浩
住所 東京都港区北青山二丁目二十四番(06006)
電話 東京 〇三三四〇四一五一(大代表)
定価 1,000円(税別)送料 八十七円
The Japan Press, Ltd.

SPACE 2020年12月7日発行 第50巻第12号 通巻600号(第1号発行) 昭和46年3月6日 第三種郵便物認可 ISSN 0389-4800

月刊 航空貨物専門誌

SPACE 12

2020 Vol.50, No.12(600)

The Japan Press, Ltd. TEL: 03-3404-5151 FAX: 03-3404-5152 www.japanpress.co.jp

定価 1,000円(税別)

特集 2020年回顧: コロナで始まりコロナで終る 史上最悪年の明日は?



Carrier Now

ルフトハンザカーゴ: 関空線を大型機777Fで強化

Logistics Now

平野ロジスティクス: 空調仕様の +7 COOLが登場

最新ニュースをメルマガで配信中
登録は本誌ウェブで! www.japanpress.co.jp
無料



空調仕様の“+7 COOL”が登場

—成田～羽田間の定温輸送の需要増に応えます



写真上:サーモキングのSLXi200は、独立一体型ディーゼル駆動の冷却・加熱ユニットで、トレーラー前部に装着される。医薬品/生鮮食品/冷凍食品などの温度管理輸送に最適だ。写真左:トレーラー内部に設置される吹き出し口。同ユニットで使用される冷媒(冷媒量)はR-452A (6.58kg)。

THERMO KING SLXi200

冷凍機本体に専用エンジンを搭載するサブエンジン型ユニット。トレーラーの走行状態に左右されないため、一定の温度管理が可能。細かな温度制御を維持しつつ、燃費・メンテナンスなどの維持費が削減できる設計としている。



航空貨物の空港間OLT輸送(保税転送)のリーディングカンパニーである平野ロジスティクスが、航空貨物用ULDを2段積みできるオリジナル・トレーラー“+7”に、新たに空調管理機能を搭載した“+7 COOL”を導入して、近年、増加傾向にある空調輸送ニーズに対応する。

サーモキング製の冷凍ユニットを搭載

今回導入される“+7 COOL”は、既存の+7に冷凍機メーカーであるサーモキング製の冷凍ユニットを装着し、空調管理機能を追加したもので、トレーラー側面に“COOL”のロゴマークが施される(上写真は+7)。

ベースとなる+7は2016年3月、日本では初となる航空貨物用ULDを2段積みできる超低床タイプのセミトレーラー車として登場。車両製作はオランダのユトレヒトに本社を置くECK社で、ヘッドは同社でお馴染みのスウェーデン・スカニア製だ。

荷台部分が2層構造の、いわゆるダブルデッカーに

なっており、上段に96インチULDを4基、またはLD3コンテナ8基と、下段にLD3コンテナ5基を搭載できる。+7(プラスセブン)というネーミングは、通常的大型トラックではLD3なら最大6台積みのところを、“7台多い”13台積めることに由来する。

また、上段部へのコンテナ搭載のためにパワーゲートを装備しているほか、ベルトコンベヤーにより上段部の移動は自動化されている。この画期的な2段積みトレーラーの登場が、日本の航空貨物陸送に変革をもたらしたことは記憶に新しい。

一方、サーモキングは大型トレーラー/各種トラック/バス/海運用・鉄道向けのコンテナなどに装着されるエアコン/冷凍・冷蔵機器等において、全世界で高いシェアを誇るブランドとして有名だ。

+7 COOLには、同社の冷凍ユニットSLXi200がトレーラー前部に装着される(右上写真)。これにより、荷台部分は上段下段ともに-15℃～+20℃まで冷却が可能になるという。

同社は、-25℃～+25℃の空調温度帯を持つ医薬品専用車両“KIX Medica”のほか、96インチULDが搭載可能な空調車を保有しているが、益子研一・取締役営業本部長は「+7 COOLは新型コロナウイルスの感染が拡大する前の、昨19年8月にオーダーしていました」という。

今回の+7 COOLは、航空会社からの要望が多かったため、開発に至ったという経緯がある。「空調機能を持つトラックの需要は、新型コロナ以前、月に2台程度だったものが、いまでは毎日2、3台が必要になっている状況です。特に成田～羽田間でULD単位の空調輸送に関する依頼が多くなっています」と、近年における空調輸送ニーズの増加を実感している。

いまや航空各社は、医薬品/生鮮食品/冷凍食品など、温度管理が必要な貨物に対応した輸送サービスに力を入れていて、それらのサービスでは、輸送過程において徹底した温度管理が求められる。それゆえ、例えば成田から羽田などの近距離輸送においても、温度調整機能

を完備した車両の使用が不可欠となるわけだ。

そして現在では、世界の製薬会社が、新型コロナ・ワクチン開発にしのぎを削っている中で、同ワクチンの早期実用化への期待が高まっている。来年には多くのワクチン輸送が開始されることが予想されるが、+7 COOLは新型コロナ・ワクチン輸送でも活躍するはずだ。

+7 COOLの運行路線については、「成田～羽田間での空調輸送ニーズはありますが、現状、どの路線で運行するのか決めていません。行けるところがあれば行くというスタンスですね。特に、製薬会社が多く集積している関西からの医薬品需要は、今後も増えていくでしょうから、需要が多い時は成田～関西間に投入しようかと考えています」(益子取締役)

また、平野ロジスティクスでは+7 COOLのほかに、Medica号と同等の機能を備え、さらに後部にパワーゲートを搭載した半導体製造装置の輸送車両を2台発注しており、顧客ニーズに柔軟に対応できる体制作りを進めている。■